

## 平成 28 年度 学校の森・子どもサミット夏大会

### サミット 1 日目

#### (1) 仙台市福祉プラザふれあいホールでの森林体験活動発表会



会場に置かれた立て看板

8月4日、仙台は夏らしい青空が広がり、市内は仙台七夕祭りの飾りで鮮やかに彩られていました。発表会場である仙台市福社会館ふれあいホールには、北は北海道から南は鹿児島まで全国 11 校の発表校の児童・教員が発表 2 時間も前から集まり、リハーサルを行いました。ホール前の展示ロビーには、協賛企業、実行委員会各団体、参加小学校のパネル展示やチラシ・パンフレットが



協賛企業・団体や小学校からのパネルやパンフレットが展示されたロビー

中には、学校で作った竹筒燃料をそのまま持ち込んで飾る小学校も。他の学校の子ども達も興味深そうに覗き込んだり、触ってみたいり…発表を前に早速交流が始まっていました。



子ども達の発表

会場には発表校の子ども達 43 名・先生方 20 名を含む約 195 名の参加者が集まりました。開会式では、主催者を代表して本サミットの実行委員会委員長である梶谷辰哉氏（国土緑化推進機構 専務理事）及び実行委員の今泉裕治氏（林野庁 森林利用課 山村振興・緑化推進室室長）が開会の挨拶を行い、

「学校の森・子どもサミット」の始まった経緯や宮城県で開催される意義、子ども達の発表への期待などを話しました。



子ども達の発表



他の小学校の発表を真剣に聞く  
子ども達

いよいよ子ども達による学校で行っている森林体験活動の取組についての発表が始まりました。今年の発表校はその全てがサミット初参加でした。しかし、それを感じさせないほど皆堂々と工夫を凝らした発表をしてくださいました。また、活動と一緒にやっている地域の皆様がはるばる応援に来てくれている学校もあり、発表が終わるたびに客席から大きな拍手が湧きあがりました。子ども達の発表の合間には、先生方への質疑応答のコーナーが設けられ、それぞれの先生が日頃ご苦労されていることや学校全体として

の取り組み、今後の活動についてなど様々なお話をお聞きしました。

全校の発表が終わった後、子ども達は、9階にある大広間に移動し、各校が紹介した取組について感想を発表しあい、交流を深めました。また、様々なクラフト作りにも挑戦し、特に「即席コマ作り大会」が大いに盛り上がりました。ナイフやのこぎりを使って、材料の木材を工夫して加工し、自作のコマがどれだけ長く回るかを競争しました。



即席コマ作り大会

一方、大人達はふれあいホールで開催された講演、パネル



パネルディスカッションの様子

ディスカッションを観

覧しました。はじめに文部科学省大臣官房審議官の浅田和伸氏が、「これからの日本の教育と体験活動・防災教育」と題した講演を行いました。引き続き浅田氏、一般社団法人くりこま高原自然学校代表理事であり、NPO 法人日本の森バイオマスネットワーク理事長、一般社団法人 RQ 災害教育センター代表理事など宮城県を中心に全国各地で様々な活動を行っている佐々木豊志氏、元小学校の校長先生であり、現在

は国立大学法人宮城教育大学の特任教授である野澤令照氏、実行委員会の一員である宮城県森林インストラクター協会の日下晃氏らによる、「森林環境教育と防災・減災教育」をテーマとしたパネルディスカッションが行われ、様々な事例から子ども達の森林体験活動の可能性や、それをどのように防災・減災教育に結びつけるかなどについて意見を交わしました。

## (2) 宿泊施設へ

仙台市福祉プラザでのプログラムを終え、一行は宿泊施設である宮城県総合運動公園グランディ・21内の宿泊施設へと向いました。宿泊施設では全ての子ども達が、学校や学年に関係無く5～6人で一緒の部屋に泊まります。先ほどのクラフト体験で、すでに仲良くなった子ども達は、宿泊部屋や食堂でも疲れを見せません。「言葉がすごくなまってるよ!」「なまってないよー!」「北海道のカツゲンって知ってる?すごくおいしいよ!」「何それ?聞いたことないよ」などなど全国から集まった子ども達ならではのおしゃべりが止まりませんでした。

夕食を終えると、子ども達と先生方はグランディ・21内にある体育館の会議室に移動します。そこで、子ども達は木や葉っぱなどの自然の素材を使ったクラフト体験、葉書き作り体験、昔の遊び体験などを行いました。先生方は、別室でいくつかのグループに分かれ、今日の発表会や講演、パネルディスカッションを



手紙の木「タラヨウ」を使った  
葉書き作り



宿泊施設での様子

振返って意見交換を行うとともに、「子ども達の『やる気』『興味』を引き出す森林体験活動のカリキュラム作りとは？」



先生方の意見交換会

「教師の役割とは何か?」「6年間で身につけさせたい

力と、森林環境教育がそれにどう寄与できるか?」といったテーマでグループごとに提案をまとめ、発表しました。

宿泊施設に戻った子ども達、移動と発表の緊張ですぐに寝てしまおうと思いきや、遅くまで新しく出来た友達とお話をしたり、楽しんでいたようです。

## サミット2日目

### (1) 「ESD 学びの森」でのフィールド観察と森づくり活動体験

サミット2日目となる8月5日(金)、子ども達36名と大人達75名による森林体験活動を行いました。宿泊所であるグランディ・21からバスですぐ隣の「宮城県県民の森」に向かい、そこから7チームに分かれ「ESD 学びの森」へフィールド観察を行いながら向います。宮城県森林インストラクター協会のメンバーの皆さんがグループごとに同行してくれました。少し歩いては「この葉っぱは草笛が作りやすいよ、やってごらん」「この草は宮城県では牛タンに似ているって言われているんだよ」と解説するたびに子ども達は盛り上がり、なかなか目的地にたどり着きません。

やっと「ESD 学びの森」に到着すると、森づくり体験の始



遊歩道作り体験

まりです。宮城県森林インストラクター協会の皆さんが、今回のサミットのテーマである「森林環境教育と防災・減災教育」という観点から、森づくりを通じて子ども達に「考える力」「工夫する力」「助け合う力」を育むプログラム

を準備し、指導を行いました。グループごとに遊歩道作り、除伐作業、下草刈り体験、間伐材の皮むきなど森林のあちこちを利用し、体験しました。特に人気があったのは「間伐材の皮むき体験」です。樹皮と木の間に切り込みを入れる係、



間伐材の皮むき体験

皮をむく係にわかれチームワークで丸太の皮を剥いていきます。一気に向けると「気持ちいい!」との声。皮の剥けた丸太の湿っていて滑らかな肌触りにみんな感動し「冬に剥いたらどうなるの?」「キツツキは木のどこまで穴を開けているの?」と質問がたくさん飛び出していました。

森づくり体験が終わると、チームに1本ずつ間伐材とノコギリなどの道具が渡されます。「この間伐材を使って何が出来るかな?大人が考えると大体ベンチになっちゃうんだよ。皆はもっと面白いこと考えられるかな?」と挑戦状です。「コースター!」「それじゃ普通だよ!」「じゃあ、



間伐材は何に生まれ変わるかな?

刀!」「でも持って帰れるかな?」「木琴!」「ずっと一緒の音しかだせないよ!」など、どんどんアイデアが飛び出します。全国から集まってきた子ども達、友情の証に1本の木の輪切りを持って帰ろう、と早速ノコギリで木を切り始めたチームもありました。



活動を終えて、森での発表会

一息ついて、全員が一カ所に集まり、グループごとに「もっとこうしたらよい森になる」というアイデアと「間伐材を使ってできること」について意見をまとめて発表し合いました。「滑りやすいところがあったので、道と手すりをつけたほうがいい」「暑いので屋根をつけて休める場所があったら夏にももっとたくさん人が来てくれると思う」など森をよくするためのアイデアをみんな一生懸命考え



「ESD 学びの森」での集合写真

てくれました。また、間伐材の利用方法として丸太の方を使うのではなく、剥いた木の皮で手裏剣や飾りを編むというアイデアやいい香りがするので切ってお風呂やタンスに入れるといったアイデアをたくさん発表してくれました。

## (2) 西成田コミュニティセンターでの竹を使った食器作りと流しソーメン

「ESD 学びの森」を後にし、一行は「西成田コミュニティセンター」へ向いました。西成田コミュニティセンターでは、ナイフを使って竹でマイ箸とマイそば猪口を作りました。ナイフを使ったことのない子もいて、宮城県森林インストラクター協会の皆



竹を使ったマイ箸・マイそば猪口作り



流しソーメン

さんにナイフの持ち方や

力の入れ加減などのご指導を頂きながら、竹を切り出していきます。「食器の形にはなったけど、そのままだと触ったときにいたいよね? どうすればいいと思う?」「角を丸くする!」「やすりをかける!」子ども達は積極的に世界に一つの自分



何が流れてくるかな！？

の箸とそば猪口に改良を加えていきます。外では、宮城県森林インストラクター協会のお母さんスタッフの皆さんが、流しソーメンの準備を進めてくれています。出来たマイ箸とマイお猪口をもって、みんなは早速流しソーメンの会場へ向います。お母さん達はソーメンだけでなく、うどん、白玉、フルー

ツ、ミニトマト等々いろいろなものを準備してくださいました。「ツルツルすべって取れないよ！」「黄色いから

おかずかと思って食べたらいっぱいだった！」会場中がみんなの話し声と笑い声でいっぱいでした。

いよいよお別れの時間が近づいてきました。最後に、学校の森・子どもサミットの横断幕の前で「ありがとうございました！」とスタッフ皆にお礼を言ってくれた子ども達。1泊2日はあっという間で、みんな名残惜しそうにバスへ乗り込み、それぞれの場所に帰って行きました。

### (3) 名取市の海岸林再生現場の見学

サミット解散の後、希望者のみで名取市で行われている東日本大震災で流されてしまった海岸林の再生現場の見学に向いました。はじめに見学したのは、クロマツの苗畑です。1年目の苗と3年目の苗を見比べて、「大きさがすごく違うね」「でも2年でこれだけだったら大きくなるにはすごく時間がかかるね」「流されちゃったクロマツはどのくらいの高さだったんですか？」と皆、興味津々でした。再生活動を行っている本サミット実行委員のオイスカ

の吉田氏が、どうして再

生活動をはじめたのか、なぜ苗から作っているのか、なぜ

海岸にクロマツを植えることが防災になるのかななどを説明しました。苗畑を見学した後は、実際に植樹されている現場を見学させて貰いました。防波堤にも登り、防波堤の両側に広がる太平洋と5キロに及ぶクロマツの植樹地の景色に皆しばらく見入っていました。



クロマツの苗木



名取市海岸林植樹地の見学

植樹地から駅に向う途中には、まだ震災後の津波の様子を思わせる景色などもあり、子ども達は「もっと早く育つ松があればいいのにね」「たくさん植えないとまた流されちゃうね」などと話し合っていました。

東日本大震災から5年を経た今年、宮城県での開催となった「学校の森・子どもサミット」。森林環境教育と防災・減災教育を結びつけ、森林や身近な自然環境で行われる学習の可能性をさらに広げる場にしたいと様々な要素を盛り込んで開催致しました。サミット自体は1泊2日という短い日程ではありましたが、この発表に向けてのそれぞれの学校での準備、そしてサミットにおいて他校の取組を知ること、全国の子ども達との交流などを通じて、普段ではあまり体験できない学びがあったようです。

また、森づくりの体験やクラフト体験から「いざ」という時に自分で考え、工夫し、仲間と協力し合う経験を積むことができました。大人達にとっては、有識者による自然体験と防災・減災教育を結びつけた活動の事例から日常的に学校でも取り入れられる森林体験活動と防災教育の融合を考えるきっかけになったようです。今回のサミットを通じて、森林環境教育とプラスアルファとなる何かを結びつけることで、 $1+1=2$ 以上の新たな広がりを生むことができると感じました。